

1. ウィーン体制

**ウィーン会議（1814～15） ウィーン体制発足**

- ・正統主義に立脚 正統な君主間の同盟である神聖同盟の成立（イギリス・オスマン帝国・ローマ教皇は除く）
- ・五大国の勢力均衡によって革命・戦争の再発防止をはかる 四国同盟（のち五国同盟）の成立
- ・ウィーン体制を脅かす自由主義・ナショナリズムを抑圧
- ・メッテルニヒ（オーストリア；主催者）、タレーラン（フランス；正統主義を提唱）らが参加

ルイ 18 世  
（位 1814～24）

- ・ブルボン朝支配の復活
- ・復古王政の開始
  - ・制限選挙による立憲君主政
  - ・諸権利の保障
    - ・所有権の不可侵
    - ・法の下での平等
  - ・出版・言論の自由

シャルル 10 世  
（位 1824～30）

- ・革命の際に亡命した聖職者・貴族に補償金を支給
- ・アルジェリア出兵（30）
- ・七月勅令（30）
  - ・出版・言論の自由を統制
  - ・制限選挙の強化

【自由主義・ナショナリズム運動とその対応】

《ヨーロッパ諸国》

- ・ブルシェンシャフト運動（独）
  - ・憲法制定とドイツ国家統一を要求
  - カールスバートの決議を経て弾圧
- ・スペイン立憲革命（西）
  - フランスの介入により弾圧
- ・カルボナリの蜂起（伊） オーストリアにより弾圧
- ・デカブリストの乱（露）
  - アレクサンドル 1 世の死が契機、
  - 新帝ニコライ 1 世により弾圧

《新大陸》

- ・ラテンアメリカの独立

《オスマン帝国》

- ・ギリシア独立戦争
- オスマン帝国からギリシアが独立

**七月革命（1830）**

・パリ市民の蜂起（ラ＝ファイエットら） シャルル 10 世の亡命

ルイ＝フィリップ  
（オルレアン家、七月王政）  
（位 1830～48）

- ・少数の上層ブルジョワジーによる支配
- ・産業革命の進展
- ・労働者、資本家階級の形成
  - ・労働条件の改善を求める
  - 労働者の要求が高まる
  - ・社会主義思想の台頭
- ・選挙法改正運動の高揚
  - ・中小ブルジョワジーが主導
  - ・労働者も同調
  - 政府の強圧策に反発
- ・凶作・経済恐慌（1846 頃～）

【七月革命の影響】

- ・ワルシャワ蜂起（ポーランド）
  - ロシアによって鎮圧、直轄領へ
- ・カルボナリの蜂起
  - オーストリアなどによって鎮圧
- ・ドイツ連邦内の諸邦国において立憲君主政の邦国が増加
- ・オランダからベルギー独立
  - オーストリア・ロシアともに干渉できず
- ・マツィーニが青年イタリア結成
- ・イギリス、第 1 回選挙法改正（32）
- ・ドイツ関税同盟発足（34）

**二月革命（1848）**

・パリ市民の蜂起 ルイ＝フィリップの亡命

## 【ウィーン議定書】

### 《ブルボン家》

- ・フランス、スペイン、南イタリアでブルボン朝復活

### 《イギリス》

- ・海上航路の要所を獲得（ケープ植民地、セイロン島、マルタ島）

### 《プロイセン》

- ・ラインラント獲得（この地域を中心にドイツでは産業革命が発展）

### 《オーストリア》

- ・北イタリアのロンバルディア、ヴェネツィアを獲得
- ・ドイツ連邦（35 君主国・4 自由市で構成）の盟主となる

### 《オランダ》

- ・南ネーデルラント（のちのベルギー）を獲得
- ・オランダ立憲王国の成立

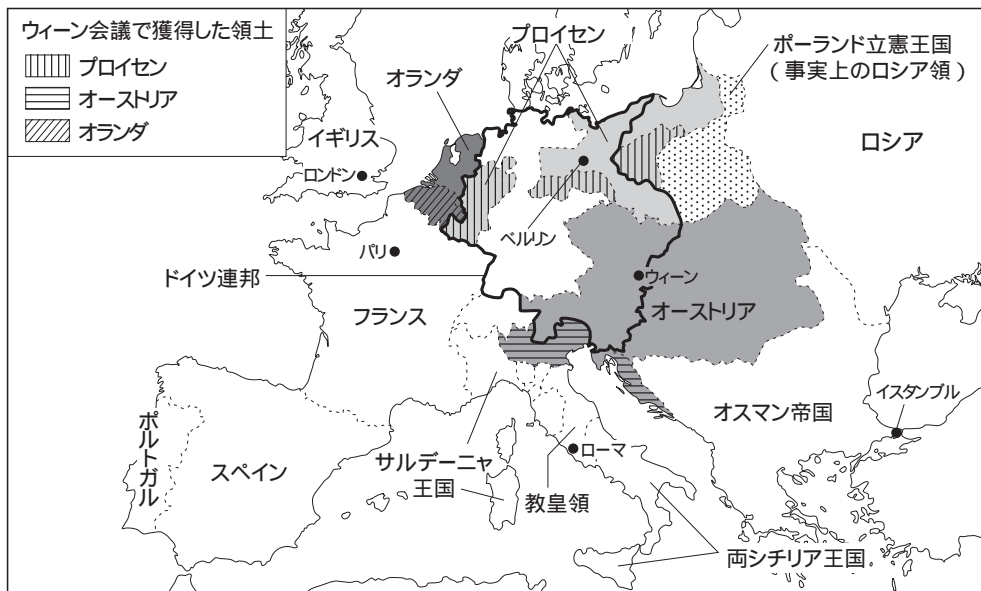
### 《ロシア》

- ・フィンランド、ベッサラビアを獲得
- ・ポーランド立憲王国の成立、ロシア皇帝アレクサンドル 1 世が国王を兼ねる

### 《スイス》

- ・永世中立国としての地位を承認される

ウィーン体制下のヨーロッパ



## 演習 第1・2講

### 【1】

19世紀前半にヨーロッパで成立したウィーン体制とラテンアメリカ諸国で興隆した独立運動との関係を、以下の語句を用いて述べなさい。なお、解答文中では指定された語句に下線を施すこと。(400字以内)

モンロー宣言    シモン = ボリバル    クリオーリョ  
サン = マルティン    ジョージ = カニング

(筑波大【3】・2005年)

### 【2】

19世紀中葉のヨーロッパ諸地域において連鎖的な展開をみたいわゆる「1848年革命」は、「諸民族の春」とも評される。この「1848年革命」について、下記の語句(順不同)を必ず用いて150字以上200字以内で記述せよ。ただし、所定の語句にはアンダーラインを付しなさい。

ウィーン体制    コシュート    スラヴ民族会議    第二共和政  
二月革命    フランクフルト国民議会    ルイ = ブラン

(早稲田大法【5】・1992年)

### 【3】

次の文章を読み、文中の空欄( A )~( J )に最も適切な語句を入れなさい。また、下線部(1)~(5)に関する各設問に答えなさい。

ドイツ近代の歴史はナポレオンのドイツ制覇に始まる。フランスに併合されたライン左岸では封建制が廃止され、徹底した改革が行われた。これに対しナポレオンを盟主とする( A )が形成された中部・西南ドイツでは、教会領や帝国直属領などがヘッセン、バイエルンなどの主要な領邦に併合され、プロイセン、オーストリアに対抗しうる国家群がつけられた。そのためそれら領邦の君主権はむしろ強化された。他方、ナポレオン軍との戦いに敗れ、またナポレオンの( B )によって経済的打撃をこうむったプロイセンは自ら改革に着手せざるを得なかった。シュタインおよび( C )によるプロイセン改革のうち、行政改革、軍制改革、(1)教育改革などの国家への直属性の強い分野においては改革プランの多くが達成されたのに対し、伝統的土地貴族支配の残る地域では改革はほとんど進まなかった。特に農制改革は土地貴族の抵抗にあい、農奴身分や賦役からの解放が有償で行われたために、広大な土地や資産が土地貴族の側に集中し、反対に、十分な土地や資産を持たない小農や零細農は解放の対象から外れ、封建制に束縛されたまま土地貴族のもとで働く農村労働者となった。こうしてプロイセン農制改革は封建的土地貴族による資本主義的農業経営、すなわち( D )経営を生み出すとともに、かえって彼らの支配を強

# 解答例・解説

## 演習第1・2講

【1】《筑波大【3】・2005年》

ラテンアメリカでは、フランス革命とナポレオン戦争による宗主国の混乱から、クリオーリョ主導の独立運動が本格化した。自由主義・ナショナリズムの抑圧をはかる保守的なウィーン体制下において、その中心的存在で神聖同盟を支えたオーストリアのメッテルニヒは、これに対する軍事干渉をはかった。しかし、合衆国がモンロー宣言でアメリカ大陸とヨーロッパ大陸の相互不干渉を主張し、イギリスがジョージ・カニング外相のもとでクリオーリョと結んで自由貿易体制の拡大をはかり独立を支持する姿勢をとるなど、欧米各国の対応は分かれた。そのため、北部ではベネズエラ出身のシモン・ボリバル、南部ではアルゼンチンの独立などに寄与したサン・マルティンらが中心となって、次々と独立が果たされた。これによりラテンアメリカには共和制の立憲国家が多く成立し、ウィーン体制は動揺していった。(368字)

まず、当時の状況をまとめてみる。

神聖同盟諸国	イギリス・合衆国
<ul style="list-style-type: none"><li>・ウィーン体制下で自由主義・ナショナリズム抑圧</li><li>・ラテンアメリカの独立に介入をはかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・合衆国...モンロー宣言(教書)</li><li>・アメリカ大陸諸国とヨーロッパの相互不干渉</li><li>・イギリス...独立支持</li><li>・ラテンアメリカの市場化をはかる</li></ul>

ウィーン体制動揺



ラテンアメリカ諸国の独立

- ・共和制を採用
- ・立憲国家

問われているのは、「ウィーン体制とラテンアメリカ諸国で興隆した独立運動との関係」である。従って、単なるウィーン体制の説明と、単なるラテンアメリカの独立運動を併記しただけでは題意を満たさない。ウィーン体制下の神聖同盟諸国が独立に介入しようとしたが( ), イギリスや合衆国はそれぞれ独立を支持する立場をとったため( ), ラテンアメリカ諸国が独立を果たした( )という論理的なつながりを示すことが必要である。また、ラテンアメリカに多くの共和制を採る立憲国家が成立したことは、正統主義のもとで君主制国家により構成されるウィーン体制を動揺させる( )ことにつながった。独立までで論を終えるのではなく、この箇所にも言及してほしい。

イギリスと合衆国の対応は大切なポイントとなるので、教科書や参考書などの内容をよく確認しておこう。合衆国はモンロー宣言を発してアメリカ大陸諸国に対するヨーロッパからの干渉に反対し、一方、経済進出をねらうイギリスの外相カニングは、独立によるスペインの影響力後退を期待して独立を支持した。このため、ラテンアメリカでは独立後もプランテーション経営が続き、モノカルチャー経済が進行していくこととなった。こうした影響も併せて復習しておくといだろう。

## 【2】《早稲田大法【5】・1992年》

フランス二月革命が各地に波及し、ウィーン体制は崩壊へ向かった。オーストリアではメッテルニヒが失脚し、コシュートの指導によるハンガリー独立運動や、スラヴ民族会議の開催など、ナショナリズムが高揚した。フランクフルト国民議会ではドイツ統一と憲法制定が討議され、フランスでは第二共和政下の臨時政府にルイ＝ブランら社会主義者が参加したが、社会主義勢力の台頭はブルジョワジーを保守化させ、各地の運動は鎮圧された。

(200字)

かなり字数が厳しい。フランスの二月革命が、オーストリア・プロイセンの三月革命につながったこと、複合民族国家であるオーストリア帝国で、スラヴ系諸民族やマジャール人の民族運動が高揚したこと、フランクフルト国民議会において、ドイツの統一と自由主義的な憲法制定がめざされたことを指摘すると、それだけでかなり字数を使ってしまおう。

1848年革命はブルジョワジーに政治参加への道を拓いた。そのため、ブルジョワジーはこれまでのように革命側、いわば反体制側に立たなくても、権力側から自由主義的な要求を実現できるようになったのである。そのため、今後はむしろ労働者たちによる社会主義的な要求が実現することをおそれ、保守化して社会主義者を抑圧する側にまわっていく。